

6万人が感動した教育界の知られざる名作

『大きな学力』第2弾

生徒、父母、市民から寄せられた感想より

自分の悩みが小さく見えてきた！

(高校3年生)

私も不安や悩みなどが沢山あります。この本を読んで私が悩んでいる事が小さく思えました。世の中にはもっと大きな事で悩んでいる人がいる事、それと、挑戦する事を教えてもらいました。

理想の教師像が変わった！

(教師志望の学生)

自分の理想の教師像が変わった。子どもの心の闇を受け止めるには、よく聞き、受け入れ、共感できるか、まさに人間としての器が問われる。父母、社会、地域の人々と関わりながら、失敗を恐れず、波風体験を大切にしたい「何を言ったか」ではなく、「誰が言ったか」の“誰”になりたい。

壁にぶつかった時こそ、「内的勝利」を！

(父母)

子育てに悩むとき、人生の壁にぶつかる時、どのように考えたら一歩前に進めるか迷ったときこそ、手に取りたくなる一冊です。私はとりわけ「内的勝利」についての記述部分が心に響いてなりません。

単なる教育書ではなく、人生の指南書

(市民)

単なる教育書にとどまることなく人生の指南書のように。こういう教育がされていることに対して一市民として深く感動しました。じっくりかみしめながらもう一度しっかり読みたいと思います。

生きる勇気が湧いてきました

(京都府・夫を亡くした市民より)

波風をいとわないでというメッセージ。生きる勇気が湧いてきました。

子どもたちや、
そしてついに、
輝ける時間を手にするまでの真実のドキュメントがここある。

「21世紀型学び」

の

人間群像

波風体験

自分の「大きな力」に気づくとき

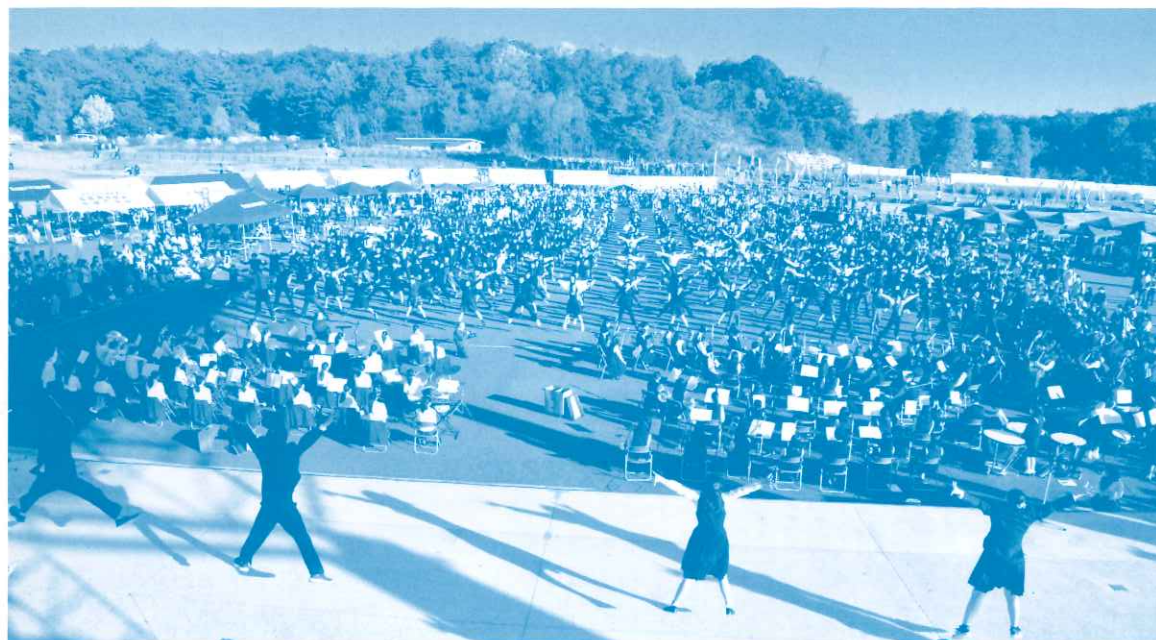
寺内義和



教育の「常識」には「ウソ」がいっぱい！
6万人が感動した教育界の知られざる名作
待望の書き下ろし
「大きな学力」第2弾



私学をよくする愛知父母懇談会 第43回総会



2021年11月3日 高校生ビッグフェスティバル (モリコロパーク)
私学をよくする愛知父母懇談会は高校生の活動を支援しています。

2022年5月22日(日)
名古屋市公会堂

第43回総会プログラム

第1部

文化行事 父母懇群舞サークル

群舞「町にみどりの広場がある」



希望プロジェクト 2022

総会行事

開会の言葉	2022年度役員提案
会長挨拶	新役員あいさつ
来賓紹介	2022年度活動計画(案)
来賓あいさつ	2022年度予算(案)
祝電・メッセージ披露	総会決議(案)
議長団・書記・議事録署名人 選出	議長団・書記・議事録署名人 解任
2021年度活動報告	閉会の言葉
2021年度会計報告・監査報告	

第2部

記念講演 元阪神タイガース選手

よこた しんたろう
横田 慎太郎氏

「諦めない心」



メインゲストには最近TV等で話題になっている横田慎太郎さんをお迎えします。横田さんの、早くから野球の世界に入り、その「目標」を持った生き方、経験された数々の波風体験、そして、体験からつかみ取ったお考えは大変示唆に富み、希望を語る私たちを励まし、自信と勇気を与えてくれるものになることは間違いありません。

日頃、「人は一人では生きていけない。いつも誰かが励まし、支え、勇気をくれる」と語る横田さんですが、今日は、「1. 自分で掲げた目標から逃げないことの大切さ、 2. 絶望することがあっても立ち向かうことの大切さ、 3. 生きていくことの大切さ」を中心にお話しいたします。

【横田慎太郎さんプロフィール】 1995年、東京都生まれ。3歳で鹿児島に引っ越す。

鹿児島実業高校では中心選手として活躍。2013年のドラフト2位で阪神タイガースに入団。1、2年目はファームで経験を積み、3年目の2016年は開幕からスタメン出場。翌2017年はさらなる飛躍を目指したが、原因不明の頭痛が続き、脳腫瘍と診断される。2018年からは育成契約に移行し、復帰を目指し懸命な努力を重ねたが、視力が最後まで十分に回復せず、叶わなかった。2019年に現役を引退。引退試合で見せた「奇跡のバックホーム」が話題となった。2021年5月に初の著書『奇跡のバックホーム』(幻冬舎)を出版。現在は鹿児島を拠点に、講演、病院訪問、YouTube 配信など幅広く活躍している。



シンボルマーク
愛知(ローマ字の頭文字A)をバックに私学(スクールの頭文字Sが回転永久運動の型)
父母懇(人形を複数で会員表現)の趣旨を図案化

(小林淳一氏の原画)

2021年度 活動報告

私たち「私学をよくする愛知父母懇談会」は、「ひとりぼっちの父母をつくらない！」を合言葉に、42年間にわたって活動を積み重ね、子ども達を真ん中に、父母と先生、市民が一緒になって、お互いに学び、助け合い、共に成長できる教育・文化活動と私学助成の拡充による「公私格差の解消」を目指して活動してきました。

5月に予定していた「第42回総会」は、新型コロナウイルス変異株感染の急拡大による三度目の緊急事態宣言のため残念ながら中止となりました。続く6月の「教育を考える初夏の集い」も、中止となりましたが、それぞれの地域では感染対策を万全に代替企画を行い、「今何をすべきか」「どうやったらできるのか」を意識しながら父母懇活動をスタートいたしました。

前年中止となった「第32回愛知サマーセミナー」は、規模を縮小しながらも7月に復活開催されました。生徒、父母、先生、市民が一体となり豊かな学びと感動を共有し、学ぶことの楽しさと新しいつながりを広げ、「21世紀型学び」を体現することができました。

「夏季一泊研修会」は、今年は宿泊をせず一日での開催となりましたが、オンラインでサテライト会場を作るなど、今できる形で情勢と活動の成果を確認し、秋の大きな運動に向かって気持ちを高めるとともに、会員相互の交流を図り、「宴」のない父母懇企画であっても大変有意義な時間を過ごすことができました。

9月末から始まった「地域別県民文化大祭典&夢の学校2021」は、コロナ禍で発表する場がなかった部活発表や作品展など、私立高校だけでなく公立中学校にも協力していただき、参加者一人ひとりが主体者となり、多くの市民とつながる貴重な学びの場になりました。式典では89名の県会議員の先生方にご登壇いただき、「年収720万未満世帯無償化」により「私学選択の自由」が大幅に広がったことへの感謝の気持ちを伝え、「更なる私学無償化」拡充への願いを幅広い世代の市民の皆さんと共有し、各会場で大成功を収めました。11月3日にはモリコロパークで「BIGフェスティバル」が開催されました。コロナ禍でも諦めることなく「輝きたい、つながりたい」という子ども達のひたむきな思いが結実した希望プロジェクトに、沢山の父母や先生にもクラッピングで参加していただくことができ、皆さんの輝く笑顔が参加者に大きな共感と感動を与えました。

12月には「オータムフェス2021の成功を祝う会」とともに、「父母懇40周年記念レセプション」も開催することができました。2年越しで披露できた「父母懇40周年記念希望プロジェクト」は、父母懇の歴史の重みを再認識し、新たな一步を踏み出すための大切な1ページとなりました。

「私学助成拡充を求める請願署名」においては、昨年同様県署名は代表請願とし、12月の県議会において全党一致で採択されました。「丁寧な署名」を心掛け取り組んだ国署名は188万7731筆を提出することができました。私たちの切なる願いを受け止めていただき、愛知県の2022年度予算では、授業料助成・入学金補助については昨年と同額を維持、経常費助成は中学・高校共に昨年よりも増額されました。また、市町村助成においては増額された地域がある一方で、減額の動きがある自治体でも地域行政へ積極的に働きかけることで、廃止阻止、復活へと導きました。これらは、新入生父母の負担を軽減し、「私学選択の自由」につながる私たちの要望に沿った、未来につながる成果といえます。

一年の締めくくりとなる「第37回春の研修会」は、「まん延防止等重点措置」の延長により、直前で会場と日程を変更せざるを得ませんでした。限られた参加人数ではありましたが、この一年取り組んできたこと、頑張ったこと、感動の数々を、生徒・父母・先生と共有することができ、今後の父母懇活動へとつながる有意義なものとなりました。

また年間を通じて各地域で取り組まれた「網の目教育懇談会」は、無償化が拡充され「私学を知りたい」という公立中学生とその父母の皆さんの期待に応える場となりました。生徒・父母・先生が語る父母懇らしい温かな雰囲気の中で、コロナ禍でも進路を選択しなければならない子ども達とのつながりを広めました。

コロナ禍で傷つき、孤立を深める世の中に、“ヒューマニズム”に溢れる「21世紀型学び」で、私学らしい人間教育を創造し、発信しよう

子どもと大人が共に育ちあう、

私学らしい「21世紀型学び」の創造へ

愛知の私学では、生徒、父母、教師、市民が一体となった、私学らしい「21世紀型学び」をめざして、様々な取り組みが行われています。中でも「愛知サマーセミナー」は「教育改革の壮大な挑戦」として全国の教育関係者はじめ多くの人々から大きな注目を集めています。

今年、第33回を迎える「愛知サマーセミナー」(7月16日～18日)は、愛知東邦大学、東邦高校を会場に開催されます。著名な特別講師陣はもとより、心熱い生徒、父母、教師、市民による約750講座のラインナップも決まりました。コロナ対策のため、例年より規模を縮小していますが、“参加し、共同して、社会とつながる”「21世紀型学び」の祭典として、今年もたくさんの学びと感動を与えることでしょう。

愛知父母懇は、このサマーセミナーを運営する「主力部隊」です。行政や地域の諸団体から協力を取り付け、講座の募集や宣伝、当日の受付やスタッフまで、父母の力によってサマーセミナーは支えられています。活躍する父母の“笑顔”で、サマーセミナーには「“ありがとう”の連鎖」が生まれ、誰もが「やってよかった」と感じる“夢の学校”になっています。

社会に「感動」と「共感」の渦を

巻き起こす高校生姿！

愛知の私学に毎年新たな輝きを加えているのが、高校生フェスを中心とする生徒たちの躍動です。

高校生フェスは1986年に始まり、今年で36年。生き生きと活動する姿で、父母、教師を元気にし、市民に共感を広げてきました。その思いは「高校生は無力じゃない」「私たちは希望になりたい」などの言葉に凝縮されています。

11月3日にはモリコロパークで「高校生ビッグフェス」を開催することができました。新型コロナウイルスの感染拡大によって数多くの学校行事、部活動の大会が中止されるなか、当日は、生徒たちの笑顔で溢れ、コロナ禍の暗い気持ちを吹き飛ばして「つながり」を実感する貴重な機会となりました。

また、3月18日には、ロシアのウクライナ侵襲に対して「戦争反対！緊急平和行動200名パレード」を行い、マスコミにも報道されました。生徒会の呼びかけで、全校で「平和宣言文」をあげる

学校や難民支援の募金活動を行う学校もありました。

これらの取り組みは、生徒を真ん中に父母、教師が支える「かけがえのない私学教育」の象徴的な場面となりました。

「まだ見ぬ仲間を救おう！」 1億円募金活動、「希望プロジェクト」 — 利他の思いで、学び、行動する中高生

生徒たちは1999年から、「経済的な理由で苦しむ仲間を救おう！」と街頭で「1億円募金」を行ってきました。これは、経済的な理由で高校を退学せざるを得なくなる生徒を救うために、私学の先生たちがポケットマネーを出し合って1976年に設立した「私学奨学資金財団」の原資となり、年間12万円を無利子で貸し出す奨学金として、これまで3100人が受けています。生徒たちは、昨年「コロナ禍で家庭の経済状況が急変した仲間の力になりたい」と街頭に立ち続けました。募金は累計で約1億8千万円に達しています。

また、東日本大震災から11年間、東北への復興支援と「震災を学び、伝える」取り組みを続けてきました。社会とつながる様々な“学び”と学費の公私格差解消など自分たちの足元の問題を結合した「総合芸術・希望プロジェクト」は、新歓フェスやBIGフェス、オータムフェスなどで大きな感動を広げ、「社会と向き合い、学び行動する」生徒たちを次々と生み出しています。

「一人ぼっちの父母をなくそう！」愛知 父母懇は「21世紀型学び」の大黒柱です

「私たちが学校の枠を越えてつながることができるのは、大人がつながっているからです。愛知には、父母さんたちのつながりが30年以上あるのです」(全国高校生サミットでの生徒発言より)

生徒たちがこうして躍動できるのは、学校の枠を越え、地域と深くつながった愛知父母懇の活動があるからです。「父母懇という“きんと雲”があるから、その上で、子どもたちは孫悟空のように安心して活躍できる」(小島昌夫氏・教育研究者)のです。

「学費と教育条件の公私格差の解消」は 父母懇の原点

「私学をよくする愛知父母懇談会」(略称：父母懇)は1980年に結成されました。当時、公立と私学の学費の格差は30倍以上に広がり、同じ高校生でありながら、高い学費負担を強いられる父母の

願いは切実でした。学費と教育条件の「公私格差」の解消は、「一人ぼっちの父母をなくそう！」と共に、父母懇の「原点」です。

毎年秋には、私学助成拡充を求める署名運動と共に、父母、教職員、生徒、そして多くの市民の参加を得て、「地域別県民文化大祭典(オータムフェス)」「ドーム祭典」「レインボー祭典」などの教育集会に取り組んできました。

愛知県では「年収720万未満世帯」まで 授業料と入学金の無償化が実現。

愛知県では、2020年度、「年収590万未満」世帯の授業料を無償化する「国の就学支援金」の増額分を全額活用して、私学に子どもを通わせている半数の世帯が対象となる、「年収720万未満」世帯まで授業料と入学金の無償化が実現しました。40年以上続く父母懇の粘り強い運動が実を結び、父母負担の軽減では全国トップ水準の私学助成といえます。

昨年も県下37会場で「地域別県民文化祭典(オータムフェスティバル)」を開催し、89名の県会議員にご登壇いただきました。「私学無償化」への感謝を伝えると共に、公私格差の是正と私学教育への共感を深める場となり、12月県議会では、「『教育の公平』をめざして、学費と教育条件の公私格差を抜本的に是正するために、私学助成の拡充を求める」請願を全会一致で可決していただきました。

今年度予算で高校の経常費助成は国基準を維持。授業料助成と入学金補助は昨年同額。

今年度の愛知県予算では、授業料助成と入学金補助は、昨年と同額で甲ランク(年収720万円未満世帯)の無償化と乙ランク(年収840万円未満世帯)

の1/2補助が実施され、学校への「経常費助成」は、高校では国基準を維持して、生徒一人あたり5,081円増の34万9,910円になりました(中学生は32万5,568円)。

名古屋市では、「私学助成をすすめる会」の条例制定運動(1973年)によって、「教育の機会均等」の理念に基づき、県の制度の対象にならない世帯に対する独自の授業料助成制度がつくられ、40年以上実施されてきました。一昨年、制度にのっとり9年ぶりに増額され、今年度は、「年収970万円未満」世帯に46,200円、「年収1130万円未満」世帯に27,800円が助成されます。名古屋市以外でも、県内のほとんどの市町村に独自の授業料助成制度があります。

豊かな私学教育と、全ての子どもが “学費の心配をせずに私学を選べる”ために

昨年11月に県教育委員会が、2035年までの「県立高校再編計画」を発表しました。周辺部の県立高校の統廃合をしながら、名古屋市や岡崎市の上位校をクラス増するというもので、県内の高校の序列化をさらに拡大し、「受験競争」を激化させることが懸念されます。

公立高校は、年収910万円未満世帯まで無償ですが、私学の年収720万円を超える世帯には大きな学費負担が残っており、まだ私学を自由に選べる状態ではありません。乙ランクについても助成額を引き上げ、対象世帯を広げることは、父母の切実な願いとなっています。

全ての子どもが“学費の心配をせず、自由に私学を選べる”ように、そして私学らしい人間教育を目指して、愛知父母懇は、これからもたくさんの人とつながりながら豊かな活動をすすめていきます。

地域別県民文化大祭典

BIGフェス	11/3	モリコロパーク	西	11/7	江西国際学園	千種	11/20	椋山女学園中高
豊川新城	10/2	豊川高校	名東	11/7	東邦高校	北	11/20	楠地域会館
豊橋	10/9	桜丘高校	守山	11/7	志段味会館	中川	11/20	ナカガワスタジオ
安城	10/23	碧信キャラクシープラザ	海南	11/13	愛知黎明高校	江南	11/20	布袋ふれあい会館
愛西津島	10/24	愛西市文化会館	日進東郷	11/14	ワンダースクエアドリームズ	東・中	11/21	東海中学高校
瀬戸	10/30	聖豊中学高校	岡崎・幸田	11/14	岡崎城西高校	岩倉	11/21	岩倉市総合体育文化センター
熱田	10/30	熱田生涯学習センター	豊田	11/14	みよしサンアート	昭和	11/21	南山高校男子部
小牧	10/30	味噌市民センター	尾張旭	11/14	スカイワードあさひ	豊明	11/21	農村改善センター
天白	10/30	天白生涯学習センター	春日井	11/14	西部ふれあいセンター	あま大治	11/21	七宝中央公民館
犬山	10/31	栗田ふれあいセンター	中村	11/14	同朋高校	瑞穂	11/23	名古屋大谷高校
知多半島北部	10/31	あい健康プラザホール	稲沢	11/14	中和医療専門学校	北名古屋豊山清須	11/28	清洲市民センター
長久手	10/31	イオンモール長久手	南	11/14	大同高校	一宮	11/28	一宮 i ビル
港	11/7	南陽交流プラザ	知多半島南部	11/14	武豊中央公民館	緑	12/5	ユメリア徳重地区会館

ブロック・学園・地域センター

■ブロック活動

年度当初から新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどのブロックで例年行われていた新入生歓迎会や定例会、レク、「初夏のつどい」などを中止せざるを得ない状況でした。そんな中、「初夏のつどい代替企画」に果敢に挑戦したブロックもありました。

秋には県下39会場で「オータムフェスティバル」が開催されました。クラブ活動の発表の場を奪われた多くの中高生が出演し、「無償化」「コロナへの思い」「平和」についての弁論や躍動する群舞に加え、父母はクラッピングで参加するなど式典内の「希望プロジェクト」は、多くの感動を創り出しました。各実行委員会が、感染防止対策について例年以上に議論し、工夫を凝らした賜です。

「網の目教育懇談会」はオータムフェス会場を含むべ96会場で開催され、無償化が広がったことで私学への興味関心も高まり、多くの公立中学生と父母の参加で昨年を大きく上回る3306人を数えました。各会場で父母・生徒・先生がそれぞれの視点で私学教育について語り、参加者とのつながりをつくることができました。

今後も笑顔絶やさず、「すべては子どもと教育のために」ブロック活動を進めてまいります。

■学園活動

各学園父母懇は昨年に引き続き活動の制限を余儀なくされる状況下の中、「オータムフェスティバル」「網の目教育懇談会」を大成功させること

ができました。

「網の目教育懇談会」に関しては、「年収720万円未満無償化」も追い風となり、私学への関心が高まり、どの会場も中学1・2年の父母の参加があるなど、予想を上回る盛況ぶりでした。

また、昨年より取り組んだ「クラッピング」も練習会から前夜祭・BIGフェスティバル・オータムフェスティバルと各学園、各ブロックで盛り上がることができました。

「春の研修会」のレポートでは、苦労の中、活動を続けている姿に感動しました。

これからも父母・生徒・先生・地域の繋がりを深め、「今できること」を考え、活動を続けていきます。

■地域センター

愛知県内を10の地域(名古屋東部・西部・南部・北部・中部、尾張東部・西部、知多、西三河、東三河)に区分し、各地域の活動を促進する役割を担っています。各地域センターの活動には、所属するブロック・学園の代表者、父母・生徒・先生が積極的に参加しています。地域センターが中心となって、各ブロック・学園の情報交換・情報共有を進めることで、つながりの深い、互いに支え合う活動が可能となっています。地域の特性を踏まえた活動は、各センター間の交流を深めることで、より実りあるものになると考えられます。「公私格差の是正」「教育の公平」などの大きな課題にも、地域の意見を集約して臨めるように努めてまいります。

い」の代替企画や「網の目教育懇」など前期の活動内容などが詳細に報告されました。また、オータムフェスティバルを初めとした助成金運動の方針についても熱く語られました。

また、田中一夫先生からは「2021希望プロジェクト」について動画を交えつつ群舞や合唱&クラッピングの紹介をしてもらいました。

安城学園の生徒弁論、名古屋高校学園父母懇、尾張東部センターによるメインレポート3本には、多くの感動が寄せられました。

午後からの分科会では、各レポートの発表と参加者の意見交換が活発に行われ、コロナ禍における活動の難しさとともに大切さを改めて知る機会となり、とても貴重な時間を共有する研修会となりました。

■全国私学夏季研修会(うれしの全私研)

第51回全国私学夏季研修会(全私研)が、7月31日(土)8月1日(日)の2日間、佐賀県佐賀市を発信地としてオンラインで開催されました。

一年の延期を経て、全私研史上はじめての完全オンラインでの実施でしたが、全国36都道府県から高校生31名、父母126名含め218校1230名が参加しました。全体会の記念講演では、アフガニスタンで人々に寄り添って井戸や用水路を造り続けてきた故中村哲医師の足跡を、映像とともに紹介されました。

分科会では、私学の仲間の豊かな実践に基づいて、「私学の自主性」「私学教育の自由」についてオンラインの制約を乗り越えて議論する集会成为りました。

■全国父母懇交流集会

初のオンライン開催となりました「全国父母懇交流集会」では、26都道府県312名の方々とオンライン上ではありましたが、交流を深めることができました。

全体会では、各県によって助成金制度の違いや活動の難しさ、署名活動の大変さ等を聞き、改めて全国での「つながり」の大切さを実感しました。

父母懇サマーセミナー実行委員会

コロナ禍により一年延期となりました第32回愛知サマーセミナーは、2021年7月17日(土)18日(日)、名誉校長に名城大学終身教授・特別栄誉教授の吉野彰氏をお迎えし、名城大学ナゴヤドーム前キャンパス、市邨高等学校・中学校をメイン会場に「私学無償化時代が到来!~いまこそ『21世紀型学び』を全国に発信しよう!~」をテーマに開催されました。

延期が決まってからの一年間、コロナ禍における「新しいサマーセミナー」として、安心安全を第一とした、父母懇としてのサマーセミナーへの関わり方を議論し、今回の第32回愛知サマーセミナーに臨みました。その中の一つが新たに結成した「消毒隊」を中心とした感染予防対策です。会場入口でお客様をお迎えしながらの検温、消毒とお顔を見て笑顔での対応。会場内では、担当されたスタッフの皆さんが定期的な換気と机等の消毒を徹底してくださいました。

父母懇特別企画講座としては、フリーアナウン

分散会は11分散会に18都道府県から23本のレポートがありました。

それぞれの取り組みや悩みを共有することができ、お互いをリスペクトし、そこから学び合うことで今後の活動の力となりました。

■春の研修会

テーマ:

「希望の未来!共感と対話で心をつなぎ、かけがえのない“仲間”とともに歩き始めよう」

第37回春の研修会が3月13日(日)ウィルあいちを会場に開催されました。コロナ禍の中、会場変更があり半日に短縮されたため、分科会を行えませんでした。244名の参加がありました。

全体会は折出会長挨拶に始まり、仲井先生の基調報告の後、国署名の表彰が行われました。その後、同じ会場(大ホール)で第71期高フェス岡本紗輝実行委員長による弁論、淑徳・市邨・一宮ブロック・西ブロックのレポート発表がありました。

初の試みとして、午後に予定されていた分科会レポート(資料)を参加者全員に配付しました。いろいろな制約の中、参加者の皆さんのお陰で有意義な時間を過ごすことができました。

サーの平野裕加里さんをお迎えし、「私が日々、心がけていること~アナウンサーとして、母として、働く女性として~」と題して心に響くお話をいただきました。

コロナ禍であっても、笑顔が見られたサマーセミナー。焼けつくような暑さの二日間となった2021年度のサマーセミナー。父母、生徒、先生、市民、アスクネット、会場校、他県からの皆さままで、多くの方々との出会いがありました。皆さまのご支援とご協力があったからこそ、あの暑さを乗り越え感動的な教育祭典を開催できたのだと思います。心より感謝申し上げます。

さて、第33回愛知サマーセミナーは7月16日(土)~18日(月・祝)、愛知東邦大学、東邦高等学校を中心に「コロナ禍のムコウを見据える『21世紀型学び』の祭典」をテーマに開催いたします。

サマーセミナーの成功に向けて実行委員会を中心に準備を進めております。今年度もまた皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2021年度 研修会等の開催と参加

■夏の研修会

テーマ:

<今>だからこそ、子どもたちのために、

私たちがつながり、学び合い、

元気をとりもどそう! 愛知父母懇談会

例年、ロワジールホテル(豊橋市)にて開催していた一泊研修会ですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により一泊をとりやめ「夏の研修会」と題し、8月7日(土)にウィルあいちをメイン会場とし、オンラインのサテライト会場が12会場もつくられる中、330名の参加者で開催されました。

折出会長の挨拶に続いて、仲井先生(基調報告)からは、サマーセミナーの復活や「21世紀型学び」を全国へ発信する様々な取り組み、「初夏のつど

父母懇一億円募金実行委員会

日頃は一億円募金活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

学費問題で経済的に苦しむ仲間のため、これから私学を希望する仲間のために精力的に活動を行っています。コロナ禍ということで、試行錯誤しながら感染予防対策に細心の注意をはらい活動を続けています。またその熱意は災害支援にも向

けられ、被災者のための募金活動も行っています。

私たち実行委員会としては、書き損じはがきの収益やオータムフェスティバル、研修会で募金箱を設置し微力ながら応援してきました。

これからも一人でも多くの仲間を救うために活動を続ける生徒たちをあたたく見守り、ご理解とご支援をよろしく願います。

「されど波風体験」普及推進委員会

今年度も本の普及はもとより、「本の内容を普及する」をテーマに、本の中身を広く知っていただき、目にふれる機会を作りました。

また、毎月1回の委員会の開催を定例化し、サマーセミナー、オータムフェスティバルなどでの本の普及活動について話し合いました。

2022年4月2日には、映画「それぞれの旅立ち」上映会と、著者であります寺内義和先生の講演会も開催することができました。『されど波風体験』

『大きな学力』は、父母懇の原点であり、子育てや生き方の方向性を示してくれている本です。普及をひろげることで、父母、先生や市民の方に私学教育や父母懇活動について理解を深めていただけたらと思います。

皆様には一年間普及活動にご協力いただきましたことを感謝するとともに、今後ともご協力をよろしく願います。

専門部活動

■助成金部

助成金部は私学助成の更なる拡充、完全なる無償化を目標に活動しております。

3月の「春の研修会」では分科会として助成金に対する考え方や、市町村助成の復活までの行動や署名活動について、それぞれ活動してきたことを発表し交流する予定でしたが、コロナ禍により中止になってしまいました。

私学助成拡充を目指す請願署名の集約作業が助成金部の大切な活動になっています。愛知県議会へは代表請願となりましたが、丁寧な署名を心がけており、国への提出のための集約作業に多くの父母や先生方にお力添えをいただきました。

「全国私学助成をすすめる会」主催の院内集会在参議院会館であり、議員さんへの要請活動やパレードにも参加しています。様々な活動の結果、2021年度は188万筆を超える署名を国に提出することができました。

1年間の活動や市町村私学助成制度をまとめた「ようこそ私学へ」の編集もしており、新入生や中学生の私学案内書として利用されています。

今後も私学の学費完全無償化を目指して活動してまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

■会報部

会報部では「ネットニュース」の発行を軸に活動しています。

コロナという負荷を負いながらも、「愛知父母懇の火は消さない」、今こそ「ひとりぼっちの父母をつくらない」ために頑張る時だという強い気持ちから、苦戦しながらも工夫をこらし活動されているみなさまのおもいを紙面にできたらと、一年間活動してきました。

「初夏のつどい」の時期はまだまだ思うように活動できず、悔しい思いをされた方も多かったと思います。

前年度開催できなかったサマセミも2021年度は開催することができました。晴れ渡る気持ちのよい夏空の下、多くの方が足を運ばれ、「待っていたよ」とのお声に胸が熱くなった二日間でした。

「オータムフェスティバル」では、各地で多くのドラマが生まれました。

研修会は夏も春も、検討に検討を重ねての開催。ギリギリまでできる限り多くの方に発表してほしい、参加してほしい。そんな気持ちでの開催でした。

そして「40周年記念式典」では、先輩方のおもいに触れる機会となりました。

振り返ってみればあっという間の一年間ですが、そこには言い尽くせない想いや願いが込められていました。

多くの方のみなさまのご協力のもと、限られた紙面ではありますが、少しでも分かち合うその一端を担うことができたならば幸いです。

最後に、お忙しいなか原稿の依頼を快くお引き受けくださった多くの方のみなさまに、会報部一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

■研修部

研修部は、「夏季一泊研修会」「春の一日研修会」を準備・運営し、その研修会をもとに『まとめ集』を作成するのが役割です。

今年度もコロナの状況により、夏は「一日研修」、春は「研修会」とカタチを変え、研修会を開催することができました。

「夏の一日研修会」は、「第40回夏の一泊研修会」以来の分科会を行いました。分散会は、レポートとスピーチもあり、全体会と違い、より身近にリアルな話が聞ける場だったと思います。参加者の中には、「分散会があってこそ研修会だね」と言われた方もいらっしゃいました。

「春の研修会」は、準備段階では「一日研修会」を考えて、分科会でのレポートをお願いし準備しておりました。しかしながら、蔓延防止措置期間となり、日程の変更から始まり、会場変更・時間の変更、開催方法の変更になりました。全体会のみ研修会になりましたが、一年を振り返ることができました。

このふたつの研修会で、どのブロック・学園も、コロナ禍だからと言い訳をせず、今できることを工夫してコツコツやる大切さ、試行錯誤しながら前向きに活動することを学びました。

『まとめ集』は、より多くの方に読んでいただきたいと思い、内容の編集はもちろん、冊子の色にもこだわりました。参考になる報告もたくさんあります。今後の父母懇活動にお役に立てれば幸いです。

今年度の研修部は、「今やれることを全力でやろう」をモットーに父母10人と先生3人で活動してきました。集まることの難しさを感じつつ、やるときはやる。春の研修会の『まとめ集』作りがそのものでした。コロナ禍で思うようにできなかったこともありますが、このメンバーで活動できたことは、宝です。

最後に、お忙しい中、快くレポート発表を引き受けていただいたブロック・学園の皆さま、研修部を支えてくださった先生方、父母の皆さまに研修部一同、心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

■文化部

5月、初顔合わせ、「今年こそバス旅行を実現させたい!」との目標をもってスタートしました。

7月、サマーセミナーで、会報部と共に会場案内の担当となりました。ご来場される皆様を混乱させることなく迅速にご案内するために、色々な策を考え、当日を迎えました。十分に話し合っ準備をして迎えた当日は、私たちなりの成果を感じる瞬間も多々あり、たいへん充実した2日間を過ごすことができました。サマーセミナーでの案内担当は、部内がまとまる良いきっかけになりました。

8月、夏の研修会でも会報部と共に、受付を担当。この時も、チームワーク良く活動できました。

9月10日、バス旅行の具体的な計画に入り、11月3日のビックフェスに申し込み開始を目標に準備を進めました。申し込みについても全てGoogleフォームを使う方法に変えさせていただきました。これによって、直接ご本人様と連絡が取れる状況となり、大変良かったと思っています。

12月、「伊勢おかげ横丁とVISON」へバス旅行の下見も行い、食事中の感染対策など旅行会社の方とも十分相談してまいりました。「オータムの成功を祝う会」では皆で仮装して旅行のお知らせが出来たのも、チームワークのなせるところと思っています。

3月初めに蔓延防止等重点措置が延長され、その期間内であったことなどから、残念ながら中止とさせていただきます。このような状況下であっても130人以上のお申し込みをいただき、中止の発表の直前まで、追加の受付もいただきましたので、本当に断腸の思いではありませんが、皆様と、ご家族の皆様の健康を第一に「中止」と決定させていただきました。

3月、春の研修会で、お預かりしていた旅行代金のご返却も完了いたしました。

バス旅行は実現できませんでしたが、1年を通じて、文化部は、部内でのつながり、ブロック学園の皆さま、OB会の皆さま、先生方、父母の皆さま、とのつながりを感じられる充実した良い1年を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。……来年はバス旅行が実現しますように!

諸会議

〈代表者会議〉	第1回 7月2日(月)	労働会館 東館	第2回 9月1日(土)	労働会館 東館
〈幹事会〉	4月27日(土)	労働会館 東館		
〈常任幹事会〉	第1回 6月26日(土)	第2回 7月24日(土)	第3回 8月21日(土)	第4回 9月18日(土)
	第6回 11月25日(木)	第7回 12月18日(土)	第8回 1月15日(土)	臨時 2月8日(火)
	第10回 3月12日(土)	第11回 4月16日(土)	第12回 5月14日(土)	第9回 2月12日(土)

サークル紹介

群舞サークル 「ほほえみ」

群舞サークル「ほほえみ」2003年発足以来19年間元気に練習をしてきました。父母懇総会にて皆さまに見ていただきました。私たちはその年ごとに工夫を凝らした演出を楽しみながら練習してきました。昨年、「町にみどりの広場がある」の曲で踊るようにしました。今年はこの曲を最後に群舞サークル「ほほえみ」は解散します。「町にみどりの広場がある」を歌うときは皆さんも練習して、踊ってください。長い間、ありがとうございました。

代表 牧野由美子 指導者 中川初枝



平和学習サークル LOVE&PEACE

2015年度の「戦後70年未来プロジェクト実行委員会」の趣旨を受け継ぎ、発展させる活動を目指しています。

サークル発足から5年間、広島・長崎・沖縄・地元愛知などで、戦跡をめぐり、語り部の方のお話を聞き、「生」に触れ、学んできました。平和について考える高校生の真剣な姿、支える先生方の熱意に、感動と勇気をもらいました。これからも、「21世紀型学び」を実践するサークルとして、生徒・先生方と一緒に平和について学び、生徒たちの活動を父母としてサポートしたいと思います。

日々のニュースに胸が痛み、世界平和を願う今、私たちに何ができるのか、みんなで考え、できることから一歩ずつ行動していきたいです。

☆新メンバー募集中です！

代表 吉井知子 090-1750-8963



ものづくりサークル はーとふる倶楽部

ものづくりを通して親睦を図るとともに、いろいろな物作りや体験教室などへ出かけそこで得たことを糧に、一泊研修やオタムフェスティバルなどの講座・模擬店で成果を披露したいと思います。また、それらに参加することでさらにつながりを広げ、交流を図りながら楽しく活動していきたいです。

活動：月1回 代表：加藤智恵子
(基本第2土曜日・活動内容により変更あり)



2021年度決算報告

(2021年4月1日～2022年3月31日)

■収入の部

(単位：円)

款	本年度予算	決 算	備 考
前年度繰越額	4,543,639	4,543,639	
入 会 金	12,000,000	11,997,000	入会金¥3,000×3,999名
団 体 会 費	6,082,000	8,007,420	会費¥680×11,426名+¥510×74名+私教連¥200,000
利 息 収 入	100	66	
その他の収入	0	0	
合 計	22,625,739	24,548,125	

■支出の部

(単位：円)

款	項 目	本年度予算	決 算	備 考	
事業費		12,260,000	10,917,601		
集 会 費	総 会	3,000,000	1,765,683		
	大 集 会	1,500,000	1,110,379	第42回総会チラシ・パンフ等	
	全 国 交 流 会	300,000	500,000		
	そ の 他 集 会	1,000,000	0	参加費等	
	助成金活動費	200,000	155,304	初夏のつどいチラシ、会場費・網の目教育懇会場費補助	
	す す め る 会	活 動 費	400,000	308,240	
		一億円募金活動費	240,000	240,000	
		研 修 活 動 費	130,000	63,300	
	研 修 活 動 費	一億円募金活動費	30,000	4,940	
		全 私 研 参 加	760,000	236,900	
		一 泊 研 修 会	300,000	36,000	参加者研修費・宿泊費補助等
		教 研 集 会 等	160,000	138,200	参加者交通費・宿泊費補助・記録費・レセプション補助等
	広 報 活 動 費	300,000	62,700	一日研修記録費等	
	文 化 活 動 費	300,000	240,000	父母懇ニュース発行	
活 動 援 助 費	140,000	90,000	サークル活動費		
渉 外 費	7,500,000	8,114,348	学園・ブロック還元金等		
事 務 費	160,000	162,430	アスクネット会費・慶弔関係等		
印 刷 費	900,000	4,451,580			
	687,151		父母懇リーフレット・ようこそ私学へ・世話人名簿		
	通 信 費	300,000	227,614	電話代・郵便代等	
	交 通 費	3,500,000	2,184,200		
	会 議 費	30,000	1,600		
	I T 関 連 費	150,000	86,126		
	事 務 局 費	1,360,000	1,264,889		
		事 務 所 維 持 費	250,000	253,514	家賃・水道光熱費等
		備 品 費	700,000	618,222	各備品リース代・コピーカウンター料
		消 耗 品 費	400,000	391,998	コピーインク・コピー用紙・封筒等
事 務 費		10,000	1,155	振込み手数料等	
予 備 費	4,125,739	0			
次年度繰越額		9,178,944			
合 計	22,625,739	24,548,125			

貸借対照表 (2022年3月31日現在)

(単位：円)

資 産		負債及び繰越金	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	109,126	事 務 所 積 立 金	6,450,000
普 通 預 金	8,123,710	繰 込 金	9,178,944
定 期 預 金	185,508		
事 務 所 出 資 金	6,450,000		
仮 払 金	29,000		
前 払 金	731,600		
合 計	15,628,944	合 計	15,628,944

2021年度 会計監査報告

2021年度収支決算書及び貸借対照表を監査しましたが、いずれも事実と相違ありませんでした。

2022年 4月23日

会計監査

長坂 佳子 

村田 明美 

2021年度 感謝状贈呈者

遠藤 久美子	服部 美智代	打越 陽子
川井 葉子	大杉 明美	森部 千夏
阿部 江里子	黒田 純栄	松本 ひろみ
宮崎 きよ子	今井 久詞	山岡 睦美
村田 明美	西 志保	
石塚 由紀子	鍋島 範子	
岡本 みどり	杉村 亜揮子	
戸田 朋美	水野 智慧	
千田 美保子	鈴木 陽子	
濱地 香理	小柳 愛	
近藤 育子	白井 里美	
横山 あやの	宗宮 幸子	
竹田 恵一	安田 陽子	
武藤 公子	後藤 和典	
江口 照美	森井 和美	
中川 砂由里	加藤 麻里	
石川 雅子	神谷 祥子	
名倉 愛子	大田 理香	
中神 和貴子	塩原 千佳	
岡田 美穂	柴田 史子	

2022年度常任幹事(案)

役職名	氏名	選出母体
会長	日比野 久	常任幹事会
会長代行	柴田 千春	常任幹事会
副会長	清水 俊雄	名南センター
事務局長	下畑 千代子	西三河センター
事務局次長	稲垣 直子	西三河センター
	佐々木 聡子	名北センター
	大塚 潤子	愛知淑徳市
	小野澤 勝	市 郵
会計	秋山 康子	名西センター
	江尻 雅子	名東センター
書記	楨野 敬太	名中センター
助成金部 部長	小坂 幸枝	尾張東部センター
	水谷 香里	東 邦
	黒田 純栄	同 朋
助成金部 副部長	坂本 あや子	東 海
	長坂 佳子	東三河センター
	村瀬 雅彦	名西センター
助成金部 副部長	山下 みどり	安 城
	柴田 史子	豊 川
	小澤 慶子	名西センター
助成金部 副部長	前田 十六子	西三河センター
	岩本 美保	知多センター
	益田 郁子	名東センター
文化部 部長	浅井 ますみ	尾張西部センター
	出口 久俊	名中センター
	吉野 留美子	名南センター
文化部 副部長	保科 和美	桜 丘
	橋本 勇二	黎 明
名誉顧問	竹本 弘	常任幹事会
	佐藤 廣和	常任幹事会
	山田 肥名子	常任幹事会
	安井 浩樹	常任幹事会
	寺田 京子	常任幹事会
	折出 健二	常任幹事会
顧問	西手 尚子	常任幹事会
	遠藤 久美子	常任幹事会
	川井 葉子	常任幹事会

2022年度 活動計画(案)

私学をよくする愛知父母懇談会は、「ひとりぼっちの父母をつくらない」を合言葉に、子どもたちを真ん中に、父母、先生、市民が一緒になって、お互いに学び合い、助け合い、共に成長していく「私学の間人教育」と、私学助成の運動を行ってきました。

昨年度は、コロナ禍でも、できる方法を多様に模索しながら活動を進めてきました。まだまだ終息の見えないため新型コロナウイルスとの長期戦となっていますが、一番大事なことは、出会いやきっかけをつくり、対話で心を結び、温かいつながりを実感する中で目的を共有し、活動をすすめることです。かけがえのない仲間と共に、仲良く朗らかに、<今>だからこそ、共感と対話で心をつなぎ、希望の未来に向かって大きな力を発揮してまいります！

2022年度も、子どもたちや多くの父母、先生とともに、お互いの成長を目指した「21世紀型学び」による教育と仲間づくり、そして、時代と社会が求める人間教育を創り出し、個人から家庭、家庭から地域、地域から社会へ、世代を超えた“つながり”を創造し、平和で生き生きとした社会を目指して、以下の活動に取り組んでいきます。

- 1) ブロック・学園の活動を充実させ、生徒、父母、先生、市民がつながる、「21世紀型学び」による教育と仲間づくりを生き生きと創り出します。
 - ①私学の間人教育と私学助成の運動を伝え、共に語り合える教育懇談会をブロックと学園で活発に開催します。
 - ②ブロックと学園が力を合わせ、市民とともに、子どもたちが輝き躍動する、「オータムフェスティバル」を開催します。
 - ③コロナ禍の今だからこそ、小中学生の父母や市民と語り合いながら、私学の間人教育と私学助成運動の共感を広げる、「網の目教育懇談会」を県下全域で開催します。
- 2) 第33回愛知サマーセミナーに主体者として参加し、人々や地域とつながりながら、「21世紀型学び」を発展させます。
 - ①第33回愛知サマーセミナー【会場：愛知東邦大学、東邦高等学校】の成功をめざして活動します。
 - ②コロナ禍でも、参加者も運営を支える人々も、みんなが主体的に学び楽しむことができるよう、感染防止対策を徹底して、安心して参加できるサマーセミナーをめざします。
 - ③市民の方とつながりながら、「21世紀型学び」による教育と仲間づくりをめざします。
- 3) 子どもたちが家庭の経済状況を心配せず、誇りをもって私学を選び、学ぶために、「私学選択の自由を広げる」「私学無償化の拡充」をめざして、学費と教育条件の「公私格差の解消」を求める活動を展開します。
 - ①国に対して「就学支援金の拡充」を求める全国統一署名に取り組みます。
 - ②「私学選択の自由を広げる」「私学無償化の拡充」を求めて、県や県議会、市民に理解と共感を広げ、オータムフェスティバルの成功にむけて全力で取り組みます。
 - ③市町村独自の授業料軽減助成の拡充をめざして、地域の活動をすすめます。
- 4) 生徒たちの学びを支援し、共に学び、行動する社会力を涵養します。
 - ①愛知県高校生フェスティバルの活動を積極的に支援してまいります。
 - ②「私学奨学資金財団」一億円募金活動を支援して、子どもと教育を守る市民のネットワークを広げ、理解と善意の輪を広げていきます。
 - ③生徒が主体的に参加し、社会とつながる学びを積極的に支援します。先生や地域の市民と協力しながら、私たちも一緒に学び成長してまいります。
- 5) 愛知父母懇の活動を充実させ、組織を強くします。
 - ①学びや文化活動など、レクリエーション活動を通じて、出会いを大切に楽しく父母懇活動をすすめる、会員相互の親睦を深め、仲間の輪を広げます。
 - ②<今>できることを工夫して、豊かな地域センター、ブロックの活動をすすめる、ブロックと学園のつながりを深めます。
 - ③各実行委員会、推進委員会の活動を活発にすすめます。
 - ③父母懇ネットニュースの発行、父母懇のホームページを活用した情報発信を行い、広く地域の市民へ私学教育、父母懇活動への理解を求めてまいります。
- 6) 夏の研修会、春の研修会を開催して、愛知父母懇のさまざまな活動を学び合い、父母懇活動の理解と会員同士の交流を深めてまいります。
- 7) 10月開催予定の「全国父母懇交流集会」について、愛知が主催県として期待されていることを受け止め、コロナ禍における開催形態を検討して取り組みます。
- 8) その他愛知父母懇の理念に基づき、目的達成に必要な諸活動をすすめます。

2022年度予算(案)

(2022年4月1日～2023年3月31日)

■収入の部

(単位：円)

款	本年度予算	備 考
前年度繰越額	9,178,944	
入会金	12,000,000	入会金¥3,000×4,000名
団体会費	6,371,000	会費¥680×9,000名+¥510×100名+私教連¥200,000
利息収入	100	
合 計	27,550,044	

■支出の部

(単位：円)

款	項 目	本年度予算	備 考
事業費		13,600,000	
	集 会 費	3,700,000	
	総 会	2,000,000	名古屋市公会堂使用料等
	大 集 会	500,000	サマーセミナー拠出金
	全 国 交 流 会	1,000,000	参加費等
	そ の 他 集 会	200,000	初夏のつどいチラシ、会場費・網の目教育懇会場費補助
	助成金活動費	400,000	
	すすめる会	240,000	
	活 動 費	130,000	中央行動にともなう交通費等
	一億円募金活動費	30,000	
	研 修 活 動 費	900,000	
	全私研参加	300,000	参加者交通費・宿泊費補助
	一泊研修会	300,000	資料作成・レセプション補助等
	教 研 集 会 等	300,000	参加者昼食・一日研修会記録費等
	広 報 活 動 費	300,000	父母懇ニュース発行
	文 化 活 動 費	140,000	サークル活動・バス旅行補助等
	活 動 援 助 費	8,000,000	学園・ブロック還元金等
	渉 外 費	160,000	アスクネット会費・慶弔関係等
事務費		6,340,000	
	印 刷 費	900,000	父母懇リーフレット・ようこそ私学へ・世話人名簿
	通 信 費	300,000	電話代・郵便代等
	交 通 費	3,500,000	
	会 議 費	30,000	
	I T 関 連 費	150,000	HP運営費
	事 務 局 費	1,460,000	
	事務所維持費	250,000	家賃・水道光熱費等
	備 品 費	800,000	OA 機器購入費・各備品リース料・コピーカウンター料等
	消 耗 品 費	400,000	コピーインク・コピー用紙・封筒等
	事 務 費	10,000	振込み手数料等
予備費		7,610,044	
合 計		27,550,044	

総会決議 (案)

私たち「私学をよくする愛知父母懇談会」は、42年間、私学教育に対する共感の世論を力強い支えとして、子どもたちと父母と先生と市民の願いに応えるために、私学のより良い教育環境をつくり、共に子どもと教育を守り育てることで成長してきました。「21世紀型学び」による人間教育と仲間づくりをすすめ、父母と先生と地域のあらゆる人々とながかり、子どもたちのかけがえのないのちが輝き、希望の未来を切り拓く、愛知父母懇の活動を行っていきましょう。

1. 子どもと大人がともに育ちあう「21世紀型学び」を、ブロック・学園から豊かに創り出しましょう！

ブロックと学園の活動を活発に行い、地域センターを基盤につながりを深め、子どもたちが輝き活躍できる場を多彩に創り、すべての子どもがかけがえのない存在として認められ、子どもと大人がともに育ちあう、「21世紀型学び」を豊かに創り出しましょう！

2. 学費の公私格差を解消し、全ての子どもに「私学選択の自由を広げる」「私学無償化の拡充」を実現しましょう！

私立学校も国公立と共に「公の性質をもつ」学校（教育基本法）であり、社会全体にとっての基盤であり財産です。学費の心配をせず、私学を自由に選べることは、全ての子どもと父母の願いです。オータムフェスティバル、教育懇談会、署名などあらゆる活動を通じて、「私学選択の自由を広げる」「私学無償化の拡充」をめざしましょう！

3. 「ひとりぼっちの父母をつくらない」、父母懇活動のつながりを広げ、次の世代につなげましょう！

コロナ禍によって不安が広がり、孤立や分断が憂慮されている今、父母懇活動は大切な意味を持っています。「父母懇の原点」に立ち返り、「ひとりぼっちの父母をつくらない」のスローガンのもと、「ひとりも置き去りにしない」の心で対話し、励ましと語り合いを大きく広げましょう。世代を超えて引き継がれてきた愛知父母懇のあゆみを次の世代につなぎ、新しい仲間を迎え、多彩な人々とともに、子どもたちの希望ある未来のために、平和で明るい公平な市民社会を目指して力を尽くしましょう！

2022年度 スローガン(案)

1 子どもたちが誇りをもって私学を選び、学ぶことができるように、学費の公私格差を解消して、「私学選択の自由を広げる」「私学無償化の拡充」をめざして、父母懇の総力を結集しましょう。

2 コロナ禍の今だからこそ、小中学生の父母や市民と語り合う場となる「網の目教育懇談会」を県下全域で開催し、私学の間人教育と私学助成運動の共感を拡げていきましょう。

3 「地域別県民文化大祭典2022」を通して、子どもたちを真ん中に父母、先生、市民、公立小中学校とつながり、地域とつながる「21世紀型学び」を多彩に創り上げていきましょう。

4 「地域センター」の活動を発展させ、地域を舞台に、ブロックと学園のつながりをさらに強めましょう。

5 子どもと教育を守るネットワーク運動を積極的にすすめ、私学奨学資金財団「一億円募金」の理解と善意の輪をさらに広げましょう。

6 コロナ禍で感染防止のソーシャルディスタンスはあっても、お互いの心の親密さを大事に育て、今できる形の「学び」や「文化活動」「レクリエーション」を通じて、楽しいブロック・学園活動をすすめ、「ひとりぼっちの父母をつくらない」を合言葉に、新しい仲間づくりを活発にすすめましょう。

私学をよくする愛知父母懇談会会則(案)

1. 名称

この会は、私立学校をよくしたいとねがう父母の自由な懇談会で「私学をよくする愛知父母懇談会」(略称「愛知父母懇」)と称します。

2. 目的

この会は、県民が誇りをもって選び、学び、語ることでできる私学づくりをめざし、次のことを目的とします。

- (1)子どもを生き生きと成長させるために、教職員とも連携しながら、各学園に豊かな私学教育を創造し、家庭や地域の教育力を回復するために努力します。
- (2)父母負担を軽減し、受験地獄を解消するために、学費の公私格差の解消をめざして、公費助成の大幅増額のために努力します。
- (3)要望や意見を率直に出し、自由に話し合う中で、教職員や父母相互の理解と連帯を深めるとともに、各界各層の団体や県民・地域住民とも交流し、私学の充実発展を求める県民の合意と世論を広げるために努力します。

3. 活動

この会は、目的を実行するために、次の活動を行います。

- (1)教職員の協力も得て、教育について学びあい、話し合うための集会を持ちます。
- (2)公費助成運動をすすめます。
- (3)会員相互の親睦と連帯を深め、広く父母の参加を呼びかけます。
- (4)学園・地域における父母の活動について交流、懇談します。
- (5)父母と教職員の結びつきを各学園においてもひろげます。
- (6)目的を同じくする他の団体と交流・連携します。
- (7)会報やニュースを発行します。
- (8)その他、会の目的達成に必要な諸事業を行います。

4. 構成

(1)この会は、個人会員および団体会員をもって構成する。

会員の資格

個人会員：入会金を納めた個人

団体会員：団体会費を納めた団体に所属している会員

(2)会員はブロックにすべて所属し、活動することを原則とする。

5. 運営

この会を運営するために、次の機関をもうけます。機関での決定は、出席者の過半数とします。

- (1)総会(定期総会は年1回とし、必要に応じて随時開催する)
- (2)幹事会(随時開催する)
- (3)常任幹事会(随時開催する)
- (4)各地域世話人会(随時開催する)

6. 役員

この会は、次の役員をもうけます。役員任期は1年とし、再選は妨げません。

- (1)会長1名(2)会長代行(必要に応じて)1名(3)副会長若干名(4)事務局長1名(5)事務局次長若干名(6)会計2名(7)書記若干名(8)専門部長・副部長若干名(9)会計監査2名(10)顧問若干名(11)幹事(地域センター・学園・ブロック代表およびその他必要とする役職)

7. 財政

この会の経費は、入会金、団体会費および会の活動によってうまれる事業収入、寄付金その他によってまかないます。

8. 事業年度

この会の事業年度は、毎年6月1日よりはじめ、翌年の5月31日までとします。(但し、実行委員会については、職務の性質によってはこの限りではない。)

9. 改正

この会則の改正は、総会において出席者の3分の2以上の賛同によって行ないます。

10. 施行

この会則は、1980年6月15日から実施します。
この会則は、1982年6月13日から一部改正します。
この会則は、1984年6月10日から一部改正します。
この会則は、1987年6月28日から一部改正します。
この会則は、1992年6月7日から一部改正します。
この会則は、2019年6月1日から一部改正します。